

(2) 分岐の方法

給水管の分岐の方法は、サドル付分水栓による分岐、割T字管又はT字管による分岐による分岐に分類される。

メータ口径 (mm)	分岐口径 (mm)	配水管口径 (mm)	分岐材料
20 ~ 40	20 ~ 40	40 ~ 250	サドル付分水栓 (ボール式) JWWA B 117 PE 管用は PTC B 20
50	75	75 ~ 250	割T字管 (V型) 又はT字管
75 ~ 200	75 ~ 200	100 ~ 250	

分岐口径は、配水管口径よりも小さい口径とする。

(3) 分岐穿孔工程

サドル付分水栓穿孔

) 配水管の清掃

ア．配水管のサドル付分水栓取付け位置を確認し、取付け位置の土砂及び錆等をウエス等できれいに除去し、配水管の管肌を清掃する。

イ．配水管にポリエチレンスリーブが被覆されている場合は、サドル付分水栓取付け位置の中心線より 20cm 程度離れた両位置を固定用ゴムバンド等により固定してから、中心線に沿って切り開き、ゴムバンドの位置まで折り返し、配水管の管肌をあらわす。

) サドル付分水栓の取付け

ア．サドル付分水栓を取付ける前に、全開時にボール弁が通水口径内にはみ出していないか、パッキンが正しく取付けられているか、塗装面やねじ等に傷がないか等、サドル付分水栓が正常かどうか確認する。

イ．サドル付分水栓は、配水管の管軸頂部にその中心線がくるように取付け、給水管の取出し方向及びサドル付分水栓が管軸方向から見て傾きがないか確認する。

ウ．取付けに際し、パッキンの離脱を防止するためサドル付分水栓を配水管に沿って前後に移動させてはならない。

エ．サドル部分のボルトナットの締付けは、全体に均一になるよう左右交互に的確に行う。

オ．ステンレス製のボルトナットは、異物の噛み込みや無理なねじ込みによって不具合を起こしやすいので、十分注意する。

) 穿孔作業

- ア．穿孔機は、手動式及び電動式がある。
- イ．穿孔機は、製造メーカー及び機種等により取扱いが異なるので、必ず、取扱説明書をよく読んで器具を使用する。
- ウ．サドル付分水栓の頂部のキャップを取外し、ボール弁の開閉を確認してからボール弁を開く。
- エ．分岐口径及び規格に応じたカッター又はドリルを穿孔機のスピンドルに取付ける。
- オ．サドル付分水栓の頭部へパッキンを置き、その上に穿孔機を静かに載せ、袋ナットを締付けてサドル付分水栓と一体になるように固定する。
- カ．サドル付分水栓の吐水部へ排水ホースを連結させ、ホース先端はバケツ等に差し込み、下水溝等へは直接排水しない。
- キ．刃先が管面に接するまでハンドルを静かに回転し、穿孔を開始する。
- ク．穿孔中はハンドルの回転が重く感じる。穿孔が終了するとハンドルの回転は軽くなるが、最後まで回転させ、完全に穿孔する。
- ケ．穿孔が終わったらハンドルを逆回転して刃先をボール弁の上部まで確実に戻す。このときスピンドルは最上部まで引き上げる。
- コ．ボール弁を閉め、穿孔機及び排水用ホースを取外す。
- サ．電動穿孔機は、使用中に整流火花を発生する。また、スイッチの ON・OFF 時にも火花を発生するので、ラッカー、シンナー、ベンジン、都市ガス、LP ガス等、引火又は爆発するおそれのある場所では絶対使用しない。
- シ．電動穿孔機は、器具の使用時以外はスイッチを OFF の状態にし、コンセントから電源プラグを外しておく。
- ス．配水管がビニル管及びポリエチレン管の場合は、それぞれ専用の穿孔機を使用し、穿孔終了後切片を確認すること。

) 密着型銅コアの取付け

- ア．コア挿入機は、製造メーカー及び機種等により取扱いが異なるので、必ず取扱説明書をよく読んで器具を使用する。
- イ．コアは、変形したり傷つきやすいので取扱いには十分注意する。
- ウ．ストレッチャー（コア挿入機のコア取付け部）先端にコア取付け用ヘッドを取付け、そのヘッドに該当口径のコアを差し込み、固定ナットで軽く止める。
- エ．ロッド（ハンドル付）を最上部に引き上げた状態でストレッチャーをサドル付分水栓に装着する。
- オ．挿入前に、必ず、ボール弁が全開になっているか確認する。
- カ．ロッドを手で右回りに回転しながら静かに押込む。